

長野市の「スポーツを軸としたまちづくりの推進」

長野市長
荻原 健司

1.長野市の概要 ~オリンピック施設を有するコンパクトなスポーツタウン~ 2

- 人口 : 367,889人 (令和5年3月現在) ■面積 : 834,81km² (令和5年3月現在)
- 自然環境 : 山脈に囲まれた盆地であるため、四季がはっきりしている
- アクセス : 東京駅から北陸新幹線で80分! 各施設は長野駅から車で30分圏内!
- 1998年長野オリンピック・パラリンピック冬季競技大会を開催 (現在6施設)
- プロスポーツチーム数 : 長野パルセイロ 男女(サッカー)  信州ブレイブウォリアーズ(バスケット)  ホールズ長野(フットサル) 



■長野マラソン



- ・長野五輪を契機に開催
- ・今年で**25回目**
- ・五輪施設を巡るコースが好評
- ・長野オリ・パラ時のボランティア文化継承(**オリ・パラレガシーを継承**)
- ・海外、全国から約**1万人**のランナーが参加
- ・制限時間が5時間、**競技性が高い**
- ・参加者の**満足度が高く、リピーターも多い**

■全中スケート大会



- ・スピードスケートのNTC認定を契機に、**H19年度から開催**
- ・R8年度まで**20回の継続開催**(拠点化開催)
- ・スピードスケート(エムウェーブ)、フィギュアスケート(ビッグハット)
- ・全国から約**450人**のスケーターが参加
- ・数多くのオリンピックを輩出

■NAGANOスポーツフェスティバル



(ボルダリング)



(スラックライン)

- ・S53年のやまびこ国体の開催を契機に、市民の健康増進、スポーツへの動機付けを目的に開催(今年で50回目)
- ・市内各地のオリンピック施設等を活用
- ・総合型地域スポーツクラブ等がイベントを企画・運営
- ・毎年、子どもから大人まで約**2,500人**が参加

■NAGANOパラ★スポーツデー

(ブラインドサッカー)



(ゆるスポーツ)



(ボッチャ)



(車いすバスケット)

- ・スポーツを通じた共生社会の実現を目的に開催
- ・H29年度から障害者スポーツをスポーツ部局で一体的に推進
- ・毎年、子どもから大人まで約**1,000人**が参加
- ・**R5年度スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム開催予定**

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

本市をホームタウンとする4つの地域密着型プロスポーツチームと**共通の数値目標を設定し、連携して事業に取り組むことで、【スポーツで「人」と「まち」のポジティブサイクルがまわる長野】**を目指す。
【数値目標】 ①市民のスポーツ実施率 62.3%→65% ②ホームゲーム観客入場者数 9.1万人→36.6万人
 ③ホームゲーム開催による経済波及効果 19.6億円→41.3億円



<PRポイント>

【スポーツで「人」と「まち」のポジティブサイクルがまわる長野】

スポーツの力を最大限活用し、「地域ブランドの向上・地域愛の醸成」や「地域経済の拡大」など、スポーツで「まち」が元気になる好循環を創出し、**スポーツの成長産業化・基幹産業化**を目指す。

<概要> 計画期間：～令和9年3月31日

<現状・課題>

- ・平成10年に開催された**1998長野オリンピック・パラリンピック冬季競技大会**を契機とした有形・無形の財産を活用し、スポーツの推進に取り組んでいる。
- ・高齢化率は全国に比べると若干高く、健康寿命の延伸や社会保障費の抑制といった観点から、**スポーツや運動による日常的な健康づくり**が求められている。

<総合的な取組内容> 相乗効果を生めるよう、互いの目指す成果を「見える化」していきながら、下記の事業を実施



「する」スポーツ

スポーツ教室・スポーツイベントの開催、運動指導

スポーツ実施率増

スポーツの振興



「観る」スポーツ

ホームタウンデーの実施、スタジアム・アリーナ設備の充実、商店街等との連携、観光情報の発信

ホームゲーム観客入場者数増 経済波及効果増

スポーツによる振興



「つながる」スポーツ

東日本台風被災からの復興推進、スポーツボランティア活動の促進、地域事業者との連携推進



アリーナ及び練習拠点の高機能化による地域活性化事業

企業版ふるさと納税制度を活用し、アリーナ及び練習拠点の高機能化、スポーツを通じた復興推進
 ※国の事業との有機的な連携（企業版ふるさと納税制度の活用）

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：長野市文化スポーツ振興部スポーツ課
- 地方スポーツ推進計画：第三次長野市スポーツ推進計画（R4.4）
- 地方版総合戦略：第五次長野市総合計画後期基本計画（R4.4）
- 地域スポーツコミッション：スポーツコミッション推進室（H29.4）

【問合せ先・電話番号】026-224-7804

長野県長野市文化スポーツ振興部スポーツ課スポーツ振興担当

① スポーツ施設の老朽化対策等と利活用

- ・ やまびこ国体開催から45年、長野五輪開催から25年が経過、施設の老朽化が進む
- ・ 人口減少等で厳しい財政需要下、多額の**長寿命化改修費用**、**施設存廃の判断**が求められている（例：市営体育館 35施設（小規模：**32施設**、大規模：**3施設**））
- ・ 市民利用について**適正な使用料金の検討**が必要（現状、多くの小規模施設が無料）
- ・ 効率的な施設の管理・運用策の検討が必要（例：施設のDX化の推進）
- ・ 施設の利活用に関する**中長期的戦略の策定が急務**

② スポーツ団体等と行政との連携体制

- ・ 少子化に伴う競技人口や実施機会（部活動等）の減少等、スポーツ環境の急激な変化が進行
- ・ 近年、コロナ禍によるイベント自粛等により、スポーツ実施や観戦機会が減少
- ・ プロスポーツチーム等のスポーツ団体の**経営基盤が弱体化**
- ・ 行政側もスポーツのポテンシャルを活かした各種施策（福祉、教育等）の展開が不足
- ・ スポーツ文化の維持・発展のため、**スポーツ団体等と行政が一体的に取り組む**ことが必要

③ 観光等の他分野とスポーツ資源との融合不足

- ・ 多様な観光資源、豊かな自然、各種産業があるものの、**スポーツ資源との連動性が乏しい**
- ・ 行政、産業界、スポーツ団体等、**縦割り意識が強く**、新たな取り組みが創発しにくい状況
- ・ 地域活性化のためには、**交流人口・関係人口の拡大**が必要不可欠（観光、スポーツは有効な分野）
- ・ 本市の潜在力の高い観光資源とスポーツ資源の**相乗効果を生む戦略的な対策の構築**が必要

④ スポーツ経営人材の不足

- ・ **スポーツを経営するための人材が不足**（例：プロチーム、総合型クラブ等）
- ・ 若い世代がスポーツ経営等への関心が高い中、**スポーツ団体等への取り込みができていない**
- ・ 地域特性に応じた、**スポーツをマネジメントできる人材を創出**する機能が弱い
- ・ スポーツ資源を様々な分野とつなげることができる**人材の育成・確保が急務**

① 未来を見据えた施設整備

- ・ R10年国スポ等開催を契機に、R6年度から大規模施設等の機能強化を含めた長寿命化改修
(例：将来の国際大会の開催や多様な用途に対応できる機能の充実等)
- ・ プロリーグの施設要件に適合するスタジアム・アリーナの高機能化改修
※企業版ふるさと納税制度活用（例：スイートラウンジ設置、ローカル5G等の通信環境整備等）
- ・ 北信地域のサッカー拠点となるグラウンドの整備
(例：長野Uスタジアムに隣接した人工芝2面・天然芝1面の計3面を新設、高原地域に天然芝2面を改修)
- ・ 地域スポーツの拠点施設化に向けた学校体育施設の活用・開放の促進
(例：空調設置、観客席増、ナイター施設の設置等、体育施設の高機能化)

② プロチームと行政が一体となった各種施策の展開

- ・ プロチームの経営に市が積極的に参画（チームへの増資・出資）
→地域スポーツの核となる企業への成長促進
- ・ チームによる部活動支援環境の整備
(例：R7年8月完全移行に向けて受け皿体制の構築、活動費支援の検討（教育クーポン、企業支援等）)
- ・ スポーツによる共生社会の実現の推進
(例：まちなかパラスポーツ、ゆるスポーツの実施)
- ・ 健康寿命延伸に向けたフレイル予防
(例：シン・長野市はつらつ体操の普及促進)

③ スポーツによる地域産業の活性化や新事業の創出

- ・ スポーツと観光資源の**戦略的な連携促進体制の構築**
(例：市内横断体制の構築、行政とスポーツ・観光関連企業の連携強化)
- ・ インバウンド向け**スポーツツーリズムの戦略的な取り組みの実施**
(例：ターゲット国の選定（タイ、中国等）、トップセールス等によるPR強化、短期周遊者向けツアーの造成)
- ・ 若年層を対象とした**ウィンタースポーツ活性化**に向けた取り組み強化
(例：子ども向けのスケート・スキー体験機会の創出)
- ・ 市内施設のポテンシャルを活かした合宿・大会等の誘致強化
(例：スケート、サッカー、バスケ)
- ・ スポーツと他産業の連携による**新事業の創出**
(例：市内企業を対象とした実証事業の実施)

④ スポーツまちづくり人材の育成環境の整備

- ・ 市が中心となり、**スポーツ振興・産業をけん引するマネジメントができる人材を育成**
(例：仮称「NAGANOスポーツ市塾」)
- ・ プロチーム関係者、総合型クラブ、学生、長野地域連携中枢都市圏職員等を対象
- ・ スポーツ関係のみならず、多様な業種の経営者、担当者、外部有識者等の講義を実施
- ・ 市内プロチームや施設等の現場をフィールドワークの場として積極的に活用
- ・ **人材の受け入れ体制**を整備し、若い世代のIターン・Uターンも促進

「長野市まるごとスポーツアリーナ構想」

- ・ **長野五輪開催地としてのシビックプライドのもとに、競争力の高い地域資源をフル活用し、「未来志向型の施設整備」や「プロチームとの連携」など、全国に先駆けた取り組みを推進**
- ・ **スポーツを基幹産業とし、日本唯一のスポーツタウンを構築する**